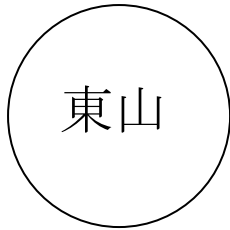


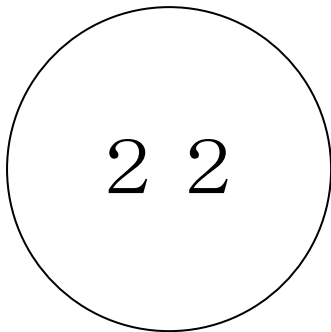
山連教第63次
教育研究集会報告書



生きる力を育む評価のあり方

～国語科におけるポートフォリオの活用～

4 学年 国語科「調べて発表しよう」



評

山連教東山地区

山梨小学校 中根 淳

研究の経過と概要

1 支部研究テーマ

「生きる力」を育む評価のあり方

2 報告書（レポート）ができるまでの具体的経過について

- 5 / 8 ・研究計画（役員，テーマ，テーマ設定の理由，研究方法）
- 5 / 15 ・テーマの確認
 - ・一枚ポートフォリオのこれまでの実践を振り返っての成果の確認
- 6 / 5 ・一枚ポートフォリオについての学習
 - ・国語科におけるポートフォリオの形式について
- 8 / 5 ・4学年国語科「調べて発表しよう」の授業案検討
- 8 / 30 ・4学年国語科「調べて発表しよう」研究授業
- 10 / 2 ・4学年国語科「調べて発表しよう」のポートフォリオの見取り
 - ・これまでの研究の中間まとめ

3 地区教研で論じられた問題と今後の課題について

- ・一枚ポートフォリオの有用性，具体的な形式，活用の仕方について，実践を通して深めていくということについて。
- ・一枚ポートフォリオを授業で活用する目的を明確にすることについて。
- ・ポートフォリオとワークシートの違いについて。
- ・本部会としての一枚ポートフォリオの定義について。

4 共同研究者

依田 一秀（加納岩小学校校長）	津野 浩二（牧丘第一小学校教頭）
小林 光三（加納岩小学校教諭）	矢崎三枝子（八幡小学校教諭）
清水 利子（八幡小学校教諭）	阪本寿美子（勝沼小学校教諭）
武井 美香（八幡小学校教諭）	久保田英樹（塩山北小学校教諭）
鶴田さつき（八幡小学校教諭）	中村 潤子（井尻小学校教諭）
笠井 裕弥（八幡小学校教諭）	古屋 岳治（松里小学校教諭）
高野恵美子（祝小学校教諭）	中根 淳（山梨小学校教諭）
原藤 生府（勝沼小学校教諭）	

◆参考文献

- ・日本標準「一枚ポートフォリオ評価 小学校編」堀 哲夫編著者
- ・日本標準「子どもの学びを育む 一枚ポートフォリオ評価 理科」堀 哲夫編著者

1 研究テーマ

「生きる力」をはぐくむ評価のあり方

2 はじめに（主題設定の理由・研究の経過）

変化の激しい実社会を主体的に力強く生きていく力を培うという観点から、子ども達に求められる力が、『生きる力』（確かな学力、豊かな人間性、健康・体力）であるとされてから十数年が経過し、その考え方は修正を加えながら現在に至っている。新たに実施されている学習指導要領においても、「児童に生きる力をはぐくむことをめざし、創意工夫した特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない」との考えが示されている。また、「児童の良い点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること」と評価についての考えが示され、『生きる力』を育成することとその評価の重要性を謳っている。

本部会ではこれまで、子どもたちに『生きる力』をはぐくむため、子どもの学ぶ意欲や学びの過程、学びあう人間関係づくりを大切にし、社会に出て生きる力につながる『ゆたかな学び』を保障していくことに焦点を当て教育研究活動を進めてきた。子ども一人ひとりの『ゆたかな学び』を保障するためには、各学校における児童・生徒や地域の実態に応じた教育課程の編成・実施や、それに伴う指導法の工夫、指導の振り返り改善、適切な評価と支援など、様々な重要な要素が考えられるが、5年前（2009年度）からは、日常行っている評価を見直し、児童の学び・変容を丁寧に見取り、具体的・積極的な評価を行うことで次の学習活動への意欲を高め、確かな学力の定着をいっそう図りながら『ゆたかな学び』を保障していきたいと考えにたち研究を進めてきている。

2009年度は、国語科において単元を通して1枚ポートフォリオを用い、読み取りの深まりや気持ちの変化を見取っていった。2010年度は、道徳の授業を通じて研究を行い、学習前・学習後において、児童の道徳的価値の高まりや心の変化を見取ることができた。2011年度は1枚ポートフォリオ評価法に焦点を当てた3年目として、作成・活用の仕方をさらに研究しながら、生活科や社会科の授業を通じて検証を行い、表現する力が伸びたり、理解が深まったりすることを見取ることができた。そして、2012年度は、前年度までの国語科、道徳、生活科、社会科からさらに教科を広げて算数で研究を進めた。2012年度は、ポートフォリオから児童の実態をつかみ、児童の学習意欲向上をめざして取り組んできたが、ポートフォリオを振り返ったり、児童相互に交流したりすることで自己肯定感が高められ、学習意欲向上にも効果が出てくることが確認できた。一方、ポートフォリオから見えてきた児童の実態や授業の課題を次によりよく生かしていくということが課題として挙げられた。

そこで5年目にあたる今年は、一枚ポートフォリオを活用する目的をより明確にして、児童と教師の双方にとって有意義な活用ができるように取り組んでいくことにした。教科は、限定しないことにした。

3 目的

◇1枚ポートフォリオを用いる目的

1) 教師の視点から

- ①1枚の紙面に、学習前・学習中・学習後が書いてあるので、見やすく、評価に生かしやすい。
- ②児童の知識や考え、理解の程度を把握することができ、教師の授業評価にも生かせる。
- ③書かれた学習履歴によって、児童の考え、思い、意欲が見え、児童理解に生かせる。

2) 児童の視点から

- ①自分の予想、考え、履歴などを振り返り、知識や考えを深めることができる。
- ②1枚のシートのなかで、学習による自分の成長（変容）を確認したり、学習の流れをとったり、学習することの意味（学習してできるようになった、わかった、大切だ）を感じたりできる。

以上のような効果が考えられることから、本部会では「1枚ポートフォリオ」を用いて、研究を進めていく。

4 実践

第4学年国語科学習指導案

指導者 中根 淳

1 単元名 調べて発表しよう だれもがかかわり合えるように

2 単元の目標

- ・関心のあることなどから話題を決め、必要なことを調べて要点をメモすることができる。
- ・相手や目的に応じ、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、話し方の工夫を考えて話すことができる。
- ・話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりすることができる。
(話・聞(1) アイウエ)

3 単元と児童

(1) 単元について

本単元は、資料「手と心で読む」を読み、その後、自分なりに課題をもって調べ、発表する単元である。点字については、3年生の総合の学習で、点の数や意味などを児童は学習してきているので、資料「手と心で読む」も、児童にとって身近な学習材である。

また、その後の学習では、児童が資料を読んで感じたことや疑問に思ったことを大切にしながら、自ら課題を設定し、調べ学習を行っていく。教科書では、児童が調べる課題として点字

の歴史なども例示してあるが、発表する際の内容が難しくなってしまう、聴く側の児童に理解の差が大きくなってしまいうため、今回は身の回りにあるバリアフリーやユニバーサルデザインにテーマを絞って、学習をすすめていく。教科書では図書館の本やパソコンを使っての調べ学習が手段として紹介されているので、積極的にそれらを活用し児童の学習を深めたい。それに加え、家庭と協力をしながら、フィールドワークを通し、実物を見たり、触ったりして調べ学習を進めるようにしていく。

調べたことを報告する際には、聞き手を意識した話し始めの工夫や資料提示の工夫も考えさせたい。また友達の報告を聞くときには、発表の仕方や発表の内容の両方に注意して、質問をしたり感想を伝えたりするような学習の場としたい。調べたことを発表する場については、ペア、グループ、学級全体と徐々に広げていく中で、互いにアドバイスをしながら、よりわかりやすい発表ができるようにしていく。

(2) 一枚ポートフォリオ活用の視点から

「子どもの視点としてねらうもの」

- ・調べ学習で調べたことや、発表会に向けて作った発表用の原稿などを、一枚のシートにまとめることで、自分が学習し積み上げてきたことが一つのページに整理されるので、学習の流れがわかりやすく、児童が個々に学習の振り返りをする際の手だてとなる。
- ・一枚のシートの中で、自分の学習による変容が可視的に確認できるので、学習の意味を自覚し、学習の達成感を味わうことができる。

「教師の視点としてねらうもの」

- ・学習内容の理解状況を把握することで、児童理解の一助となる。さらに、児童の記述を振り返ることで、教師の授業評価も同時に行うことができる。

(3) 児童の実態

男子12名 女子11名 計23名の学級である。思いやりの気持ちを一人一人が持ち、友達と接することができるように、学級会や係活動を通し、人間関係の構築をはかってきている。

「話すこと」については、各教科の学習で、どの子も積極的に挙手し、自分の考えや意見を述べようとするができる。しかし、学級会などで子どもたちだけの話し合いの様子を見てみると、自分が言いたいことだけを一方的に言っている場面が多く見られる。また、聞き手の様子を見ていても、だれかの指示や意見を鵜呑みにしてしまう児童が多く見られ、意見の交換などはあまり活発には行われなことが多い。また、話すことは好きな児童であるが、「発表することは緊張する」「恥ずかしい」などの理由で、発言に対して苦手意識を持ち始めている児童もみられる。そこで、学習においては、ペアでの対話や小集団での話し合い活動を多く取り入れ、大勢の前で発言をすることに抵抗感のある児童も、自分の意見を発言することができるように話し合いの場を工夫している。

一枚ポートフォリオについては、一学期に国語の授業で行った「一つの花」の学習において活用した。学習前と学習後に、それぞれ物語についての感想を記入させたが、学習前はなかなか自分の考えを書けなかった児童も、学習したことを踏まえ、学習後の感想では、自分の考えや思いを表すことができた。ポートフォリオを活用したことにより、学習による自身の成長を客観的に実感することができた。

4, 単元の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで関わり合いについて考え、課題について進んで調べようとしたり友達に分かるように発表しようとしていたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる方法を選び、課題を解決するための情報を集めている。 工夫して情報を整理している。 内容のまとまりを意識して、まとまりや組立がわかるように話している。 大事な言葉や部分を強調するなど、工夫して話している。 発表を聞き、気づいたことや質問したいことをメモにとったり発言したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。

5, 指導計画（全15時間）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
第1次	1 (本時) ・2	<ul style="list-style-type: none"> ① p 104を読み、関わり合いについて考える。 ②資料「手と心で読む」を読み、学習課題を設定し学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①点字ブロックや点字案内板の写真, 音声信号の映像など, 関わり合いについて考える資料を用意する。 ② p 104 「活動の流れ」を活用して学習計画を立てる。 	<p>【関】点字に関する写真や資料から, もっと知りたいことをまとめ, 単元全体の見通しをもって学習を進めようとしている。</p> <p>(話し合い・発言)</p>

第 2 次	3 ・ 4 ・ 5 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 13	<p>③課題を設定し、具体的な調査内容を決める。</p> <p>④目的に合わせ、課題にふさわしい調査方法を考えて調査計画を立てる。</p> <p>⑤メモ用カードにメモを取りながら、調査計画に沿って調査する。</p> <p>⑥調べたことや集めた情報を分類・整理する。</p> <p>⑦構成や表現を工夫して、発表原稿を書く。</p> <p>⑧発表に必要な提示資料を作成する。</p> <p>⑨聞き手を意識した発表の工夫を考え、練習する。</p> <p>⑩友達と聞き合い、アドバイスし合う。</p>	<p>③ p 1 0 9 の例も参考にしながら、学級での話し合いを生かして課題設定をする。</p> <p>④ p 1 0 9 「調べる方法」の中から、課題にふさわしい方法を選択するように助言する。</p> <p>⑤調査方法に合わせてメモ用カードを用意しておく。</p> <p>⑥ p 1 1 1 の分類・生理法を参考に、観点を決めて整理するよう助言する。</p> <p>⑦⑧簡単な構成や、話し初めの工夫、資料の提示の仕方について助言する。</p> <p>⑨言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに気をつけて練習するよう助言する。</p>	<p>【話・聞】関心のあることから課題を設定し、適切な調査方法を選択して調査計画を立てている。(ポートフォリオ)</p> <p>【話・聞】調べたことの要点をカードにメモし、話したいことが明確になるように、メモを分類整理している。(カード)</p> <p>【話・聞】調査内容や結果と自分の考えとを区別し、構成を工夫して発表原稿を作っている。(発表原稿)</p> <p>【話・聞】聞き手を引き付ける発表の工夫を考え、練習している。(発表原稿・練習)</p> <p>【言】言葉の働きと、その大切さに気づいている。(観察)</p>
第 3 次	1 4 ・ 1 5	<p>⑪発表を聞き合い、意見や感想を交流する。</p> <p>⑫調査や友達の発表を通して考えたことを交流し、単元の振り返りをする。</p> <p>⑬コラム「発表の仕方」を読み、発表の形式を知る。</p>	<p>⑪話し方のポイント、聞き方のポイントをそれぞれ提示する。</p> <p>⑫自分に身についた力を自分自身で振り返られるようにする。</p>	<p>【話・聞】聞き手の反応を確かめながら、工夫して発表している。(発表)</p> <p>【話・聞】発表を聞き、気づいたことをメモに取ったり、感想や意見を発言したりしている。(観察・発言)</p>

6, 本時の学習

(1) 日時 平成25年8月30日(金) 5校時

(2) 場所 山梨小学校 4年2組教室

(3) 目標 「かかわり合う」ということについて、調べて発表しようという意欲をもつことができる。

	児童の学習活動と内容	教師の指導・支援	評価基準(方法)
導 入	1 本時のめあてを確認する。 「かかわり合う」ということについて考えよう。		
展 開	2 教材名を読み、「かかわり合う」ということについて自分の考えを書く。 3 「かかわり合う」ということについて考えを発表し、意見を交流する。 『近い人や物との関わり合い』 ・おしゃべり ・話し合い 『遠くの人や物との関わり合い』 ・ラジオ ・本 ・インターネット ・電話 ・テレビ ・手紙 『目や耳の不自由な方との関わり合い』 ・点字 ・盲導犬 ・手話 ・キュードサイン ・筆談器 4 単元のめあてと活動の流れを確認する。	・関わり合うというイメージを児童が捉えづらい場合は、「コミュニケーションをとる」「情報を得る」など言葉を補足してイメージをさせる。 ・関わり合いの対象や方法を具体的に挙げさせることで、自分も日常的に多くの人やものと関わり合っていることに気づかせる。 ・筆談器など提示しながら学習をすすめる。 ・「だれもが」という教科書の言葉から、考える際の視野が自分達の生活にとどまらず、広がるように支援をする。 ・p104ページの活動の流れを示し、おおまかな学習の流れをつかませる。	

	<p>5 学習の流れをふまえ、調べてみたいこと（課題）について発表する。</p> <p>6 資料を読み、もっと知りたいことや確かめたいことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料「手と心で読む」を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べてみたいと思ったことは自由に出させる。課題決定については次時に行く。 題名を意識させることで、漫然と読むのではなく、「手で読む」「心で読む」の意味を考えながら内容をとらえられるようにする。 	
<p>まとめ</p>	<p>7 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題を設定し、学習計画を立てることを知らせ、次時の意欲を喚起する。 	<p>【関】単元全体の活動の流れを理解し、意欲的に取り組もうとしている。 (観察)</p>

(板書記録)



(授業の様子)



5 授業後の研究討議

〈評価・支援について〉

- 教師が筆談器や点字の電話帳など実物を用意していたので、子ども達の意欲づけになった。
- ポートフォリオを使っての見取りに加え、子どもたちの挙手の様子などで評価できた。
- 子どもたちのつぶやきを教師がよくひろっていた。

〈ポートフォリオの有効性について〉

- ポートフォリオを使うことで児童の学習理解を教師が把握する際の一助となる。
- ポートフォリオが単元全体に沿った作りになっているので、児童の学習の記録となる。
 - ・1枚ポートフォリオの中にどんな学習の足跡を残していくか、内容について精選をしていくことで、児童が個々に学習の振り返りをする際のより良い手だてとなる。
 - ・学習前と学習後の感想を見比べて記述する枠があると、児童自身が自分の成長を感じられる。

6 成果と課題〈ポートフォリオの活用に関わって〉

- 学習全体を見据えたポートフォリオを作成することで、学習のふり返りを児童が容易に行うことができた。学校行事などを挟みながらの長い学習期間となったが、学習したことが連続的につながり、学習の効果をあげることができた。
- 国語の「話すこと・聞くこと」の領域での1枚ポートフォリオの活用であったが、発表原稿を作る際の下書きなど、学習してきたことを記録としてしっかりと残せたので、学習したことの成果が1枚のポートフォリオの中に積み上がっていった。学習を終えた際の児童の満足感は非常に高かった。
- 個々の児童の気づきを見取るための手段として、児童のつぶやきや行動観察と併用しながらポートフォリオを使って有効に活用できた。
- 学習前と学習後で、「関わり合う」ということに対する自分の考えを書くことで、学習を通しての考え方の変容や自己の成長に気づくことができた。
- 学習内容の理解状況を把握することで、児童理解の一助となった。さらに、児童の記述を振り返ることで、教師の授業評価も同時に行うことができた。
 - ・「ポートフォリオの中にどんな内容を盛り込むか」、「学習ノートとの使い分けをどうするか」など、ポートフォリオを構成する内容は十分精選する必要があると実践を通して感じた。1枚ポートフォリオの良さである、「1枚のシートの中で、学習による変容を確認したり、学習することの意味を感じたりできる」ことを損なわないようにしながら活用する方法について、今後も継続して検討していきたい。
 - ・授業後の学習記述について、学習の感想を書く児童と学習のポイントを記述する児童とにばらつきが見られた。毎回、教師が補足的に記述する内容について示唆していたが、かえってそのことが児童の思考を混乱させてしまった。